



平成23年3月11日午後2時46分、東北地方太平洋沖に発生した地震は、岩手、宮城、福島県を中心とした沿岸部に大津波を引き起こし、甚大な被害をもたらした。

◀震災直後の山田町役場  
▼平成28年1月現在の様子



山田町提供

山田町提供

## 東日本大震災を忘れない ～山田町 震災からの復興～

東日本大震災発生から、今年で5年が経ちます。震災の記憶を風化させないため、また市民の皆さんの防災意識向上のため、被災地復興支援として三島市から岩手県下閉伊郡山田町へ派遣した職員の声、三島市から山田町に支援を行っている市民の声を紹介します。

問合せ 広報広聴課 (☎983-2620)、防災については危機管理課 (☎983-2650)

### 海の恩恵を受ける山田町

**岩** 手県下閉伊郡山田町は、太平洋に面する陸中海岸の中央に位置する、人口16,389人(平成28年2月1日現在)の町です。山田湾と船越湾という2つの湾に面し、イカ(写真右上)や殻付きカキ(写真右下)などの海産物に恵まれています。東日本大震災では大津波による甚大な被害を受け、800人を超える町民が亡くなり、3,000棟を超える家屋が被災しました。



山田町提供

山田町提供

### 山田町への派遣職員に聞いた当時の復興状況と想い



鈴木危機管理課課長補佐(平成23年7月～10月派遣)

**津** 波の浸水区域にがれきはほとんどないものの、仮設住宅が完成し始めた時期で、仮設住宅の入室手続き業務を行いました。避難所から仮設住宅に早く入居したいという被災者の思いが伝わり、自宅で生活できることの大切さを考えさせられました。まだ、多くの方が仮設住宅に入居されているので早い復興を祈っています。

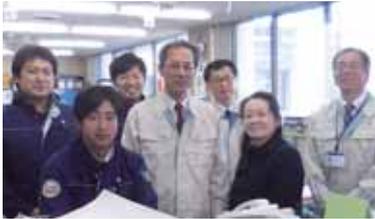


肥後危機管理課係長(平成24年4月～平成25年3月派遣)

**災** 害公営住宅などの計画を立案している最中で、窓口や仮設住宅の全般的な業務を行いました。街中にながれきはなく、家の基礎が残っている状況で、2階建の仮設店舗に複数の店が入り営業していました。仮設で美容院を営んでいる方の「水が前のように使えない中、なんとか工夫してやっている」という言葉が心に残っています。

一刻も早く被災地の皆さんが安心して暮らせるようになることを祈っています。

## 山田町への派遣職員に聞いた現在の復興状況と想い



杉山副主任（山田町建設課）  
平成26年4月～現在（写真中央）

**早**期復興を目指し、「焦らず、気負わず、おごらず」をモットーに山田地区土地区画整理事業や都市計画関連事務に従事しています。

山田地区では、災害公営住宅（146戸）が8月に竣工する予定です。土地区画整理事業区域は、今後嵩上げの後に、道路や上下水道などのインフラ整備を進め、平成30年度末の工事完了を目指しています。

山田町は降雪量が少なく、海の幸、山の幸ありの食の宝庫だと感じています。山田湾の眺望は見飽きることがありません。住民は、他県からの応援職員に感謝の気持ちを示してくれ、私も頑張ろうという気持ちになります。

今後は山田の海を財産に、活気のある安全・安心な町を目指して欲しいです。津波を体験した若者たちの底力に期待しています。



▲震災後再開された荒神海水浴場（コバルトブルーの海が美しい）

## 三島市から山田町を支援している市民に話を聞きました



伊丹志保美さん  
（フォーシーズン）

**私**は岩手県下閉伊郡山田町出身です。結婚し三島にきて、今年で15年が経ちます。

実家は山田町の沿岸部に位置しており、家族の命こそ無事でしたが震災により実家は被災し、両親は現在も仮設住宅で生活しています。震災直後、実家に帰ったとき、その悲惨さを痛感しました。

私は、「離れていても何かしたい。なんとかしなくては。」という気持ちで、手作りの焼き菓子の売上金を、山田町役場へ寄付する活動を始めました。

続けていくうちに、同じ気持ちをもった人が集まり、滝野昇さん（義母の同級生）が代表を務めるコケボラ会とフォーシーズン共催でイベントを開催することに

なりました。1回目は震災から半年後、それ以降は毎年3月に開催し、昨年までに5回実施しました。

イベントでは、バザーや山田町の特産物を使った出店などを実施し、売上金は震災遺児の支援などのために寄付しています。今年は事情があり、開催できませんが、今後は震災の様子を伝えるツアーを企画し、三島市と山田町をつないでいきたいと考えています。また復興により、もとの山田町に戻すのではなく、新しいまちをつくっていく必要があると思います。

人口流出が止まらない山田町には、外の人々の支援が必要です。どうか、これからもよろしくお願いします。



▲平成27年に実施した第5回のイベントはお陰様で大盛況でした

## 自らの命を守るため、平常時から災害に備えてください

東海地震を含む駿河トラフ・南海トラフ、相模トラフを震源域とする地震では、三島市内で6強の最大震度を観測すると想定されています。

東日本大震災での教訓を改めて考え、自らの命を守るため、平常時から防災対策を実践してください。

**①自らの命は自ら守る～大地震発生時の1分間の安全確保行動をしよう～**

とき 3月11日(金)午前10時から

内容 3つの安全確保行動「①まず低く、②頭を守

り、③動かない」を実践。（シェイクアウト訓練）



**②防災講演会「災害とメディア」～大規模災害の教訓を踏まえ～**

とき 3月11日(金)午後7時～8時30分

ところ 北小学校ランチルーム

※①②とも詳しい内容は広報みしま2月15日号掲載。